

笑顔が一番

令和7年 10月

今江こども園

二木 恵子

新しい園舎での運動会でしたが、子どもが輝く素晴らしい運動会でした。今年のテーマは「あたらしい世界 ～つなげようみんなの思い みんなの力～」でした。競技の中でも特にリズムの中や団競で子ども達の想いや先生方の想いが皆さんに伝わったのではありませんか。また、園の運動会には親子競技があり、より親子の笑顔が見られ、見ている私達も笑顔になりました。最後の親子整理体操では、向かい合ってぎゅっと抱きしめる所があり、「子どもはママやパパが大好き」「保護者の皆さんは、本当に子が愛しいんだな」と感動してしまいました。そんな皆さんの事を見ながら、改めて子ども達を、保護者の方を、大切にしたいと思いました。



さて、笑顔が一番では、明橋 大二さんの「子育てハッピーアドバイス」をお伝えしています。

運動会の様子を見ていると、皆さんもう十分に分かっておられるかなとも思いますが、毎日が新しいのが子育てです。少しでも参考になればと思うので、読んで下さい。

子どもの心は、甘えと反抗を繰り返して大きくなる

子どもの心は、どういうふうに育っていくのでしょうか。

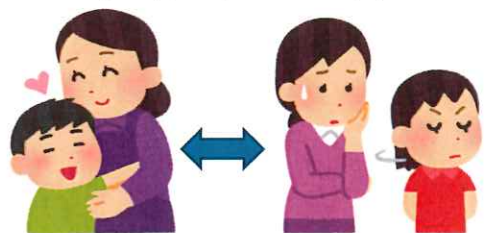
子どもの心は、甘えと反抗を繰り返して大きくなっていくと言われています。

「甘え」とは、「依存」のこと、

「反抗」とは「自立」のこと。

この二つを行ったり来たりしながら、子どもの心は大きくなっていきます。

まず、赤ちゃんとして生まれ親に依存することで「安心感」を、もらいます。そして、やがて自立の世界に向かいます。そして自由を満喫します。



甘え

反抗

ところがしばらくすると、「不安」の心が出てきます。不安の心が強くなると依存の世界に戻り、「安心感」をもらいます。じゅうぶん「安心感」をもらうと、「自分でやる」と言いだします。自分でやっていると、また不安になって親のところに帰ってきます。こうしたことを繰り返すことで自立に向かっていくのです。もし、子どもが不安になり振り返った時は、そこに親がいて、「大丈夫だよ」と、うなずいてくれる、そういう関係を築いていきましょう。

甘えない人が自立するのでなく、甘えていいときに、 じゅうぶん甘えた人が自立するのです

自立の反対は甘えなので、「甘やかさないことが自立」
と思われがちですが、「自立」のもとになるのは「意欲」
です。

「意欲」のもとには、「安心感」です。そして、その「安心
感」は、じゅうぶんな「甘え」から来ます。
そこから出た安心感が土台となって、意欲が出て、自立
に向かうのです。

園児や小学校のうちはじゅうぶん甘えていい時期で
す。しっかり甘えた子がしっかり自立するのです。

甘えは一言でいうと、相手の愛情を求めることです。

甘えが満たされる時、自分は愛されていると感じ、また自分は愛される価値の
ある存在なんだと感じます。相手に対する信頼と、自分に対する信頼（自己肯定
感）が育ちます。それが安心感に繋がります。



「甘やかす」「甘えさせる」は、どう違うのか

「甘やかす」と「甘えさせる」を区別することは、子育てのキーポイントにな
ります。このことは、以前の「笑顔が一番」でもお話ししました。大切な事なので、
もう一度お話しします。

「甘やかす」…してはならない。過干渉、過保護ともいって大人の都合で支配す
ること。

「甘えさせる」…よいこと。必要なこと。子どものペースを尊
重すること。

例えば、

「甘えさせる」

「お話聞いて」といって、ひざに入る。情緒的な要求（スキン
シップや赤ちゃん返り）を受け入れる。

靴を一人ではなく等、子どもがどうしても出来ないことを手伝う。

「甘やかす」

「お母さん、あれ買って！」等、物質的な要求（お金や物）をそのま
ま受け入れる。

出来ることをさせないで、大人がやってしまう。

ですが、実際には、区別の難しいことも多いです。その都度、これが

「甘やかす」なのか、「甘えさせる」なのか、考えていきましょう。

子育ては迷いが多いことでもあります。困った時は一人で悩まず、周りの人に助
けを求めることが大切です。

